

(仮称)埼玉中部資源循環センター一整備事業

環境影響評価調査計画書

(概要版)

平成 28 年 12 月

吉 見 町

目 次

1. 対象事業の目的と概要	1
1-1 対象事業の目的	1
1-2 対象事業の位置	1
1-3 対象事業の概要	2~4
(1) 対象施設規模	
(2) 対象事業の実施期間	
(3) 対象施設の概要	
(4) 施設配置計画	
2. 環境影響評価項目	5
3. 調査地点	6~8
3-1. 大気質・気象・土壌調査地点	
3-2. 騒音・低周波音、振動、悪臭調査地点	
3-3. 水質、水象及び地盤調査地点	

1. 対象事業の目的と概要

1-1. 対象事業の目的

本事業の実施主体となる埼玉中部資源循環組合は、「新ごみ処理施設整備基本計画」をもととした具体的な設計により、適正かつ効率的な低コストなごみ処理の実現のみならず、マテリアルリサイクル及びエネルギー回収の推進を図りつつ環境に配慮し地域貢献できる新ごみ処理施設の設置を目的とする。

1-2. 対象事業の位置



資料:国土地理院 1/25,000 地形図



計画地周辺の空中写真

資料: 地理院地図(電子国土 Web)

1-3. 対象事業の概要

(1) 対象施設規模

施設名	規模	備考
ごみ焼却処理施設 (熱回収施設)	約 228 トン/日	約 114 トン/日 × 2 炉、24 時間稼働
マテリアルリサイクル推進施設 (粗大ごみ処理施設)	約 6 トン/日	5 時間/日稼働

(2) 対象事業の実施期間

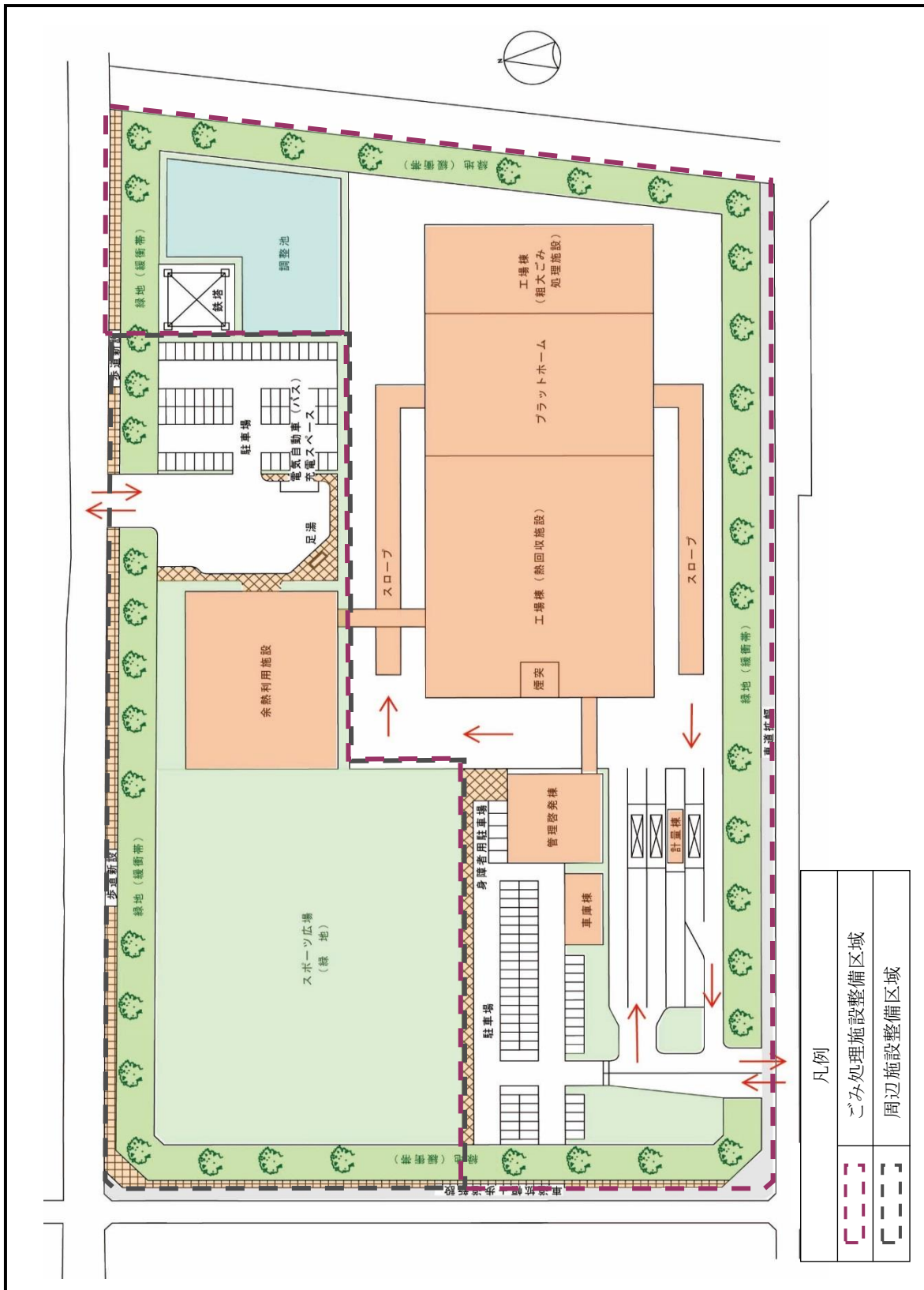
項目	年度	平成 28	平成 29	平成 30	平成 31	平成 32	平成 33	平成 34	平成 35
	環境影響評価 (評価書までの手続き)								
施設建設事業者選定 (要求水準書含む)									
施設建設工事									
施設供用									

(3) 対象施設の概要

対象事業は平成34年度に以下に示す施設を整備し、供用開始する予定です。

項目	建築物等	概要
ごみ処理施設整備区域	工場棟 (ごみ処理施設)	ごみ焼却処理施設(熱回収施設)及びマテリアルリサイクル推進施設(粗大ごみ処理施設)からなる。 構造 : 鉄骨鉄筋コンクリート造 1棟
	煙突	地上高さ : 59m 構造 : 鉄骨造外筒・鋼製内筒型(建物一体型)
	管理啓発棟	見学者説明会場を兼ねる。 構造 : 鉄筋コンクリート造
	調整池	オープン型。
	通路・駐車場等	計量棟(計量機2基)、洗車場(ごみ収集車用)、車庫棟(灰搬出車及び作業車用)を含む。
	緑地(緩衝帯)	植樹。
周辺施設整備区域	余熱利用施設	健康増進施設、農産物販売所、足湯、プール、温浴施設、イベント広場等の部屋を配置予定。 構造 : 鉄筋コンクリート造 屋上 : 太陽光パネル(175kW)を設置
	スポーツ広場	緑地として、芝張り及び植樹。
	通路・駐車場等	バスロータリー、電気自動車(バス)充電スペースを含む。
	緑地(緩衝帯)	植樹。

(4) 施設配置計画



計画地全体の配置図(案)

2. 環境影響評価項目

影響要因の区分		工事			存在・供用					
		建設機械の稼働	車両の搬送等の走行	造成等の工事	施設の稼働 (余熱利用施設含む)	施設の稼働 ごみ処理施設 余熱利用施設	自動車の走行 ごみ収集車両	余熱利用施設の利 用客等 車両の利		
調査・予測・評価の項目										
環境の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	大気質	二酸化窒素または窒素酸化物	●	●			●	●	◎	
		二酸化硫黄または硫黄酸化物					●		◎	
		浮遊粒子状物質		◎			●	●	◎	
		炭化水素		◎				●	◎	
		粉じん	●	●			◎	●	◎	
	大気質に係る有害物質等					●				
	騒音・低周波音	騒音	●	●			●	●	◎	
		低周波音					●			
	振動	振動	●	●			●	●	◎	
		臭気指数または臭気の濃度 特定悪臭物質					●		◎	
	水質	公共用水域の水質	生物化学的酸素要求量または化学的酸素要求量					○	◎	
			浮遊物質量			◎		○	◎	
			窒素及びりん					○	◎	
			水温						◎	
			水素イオン濃度			◎		○	◎	
			溶存酸素量					○	◎	
			その他の生活環境項目 健康項目等					×		
		底質	強熱減量							
			過マンガン酸カリウムによる酸素消費量							
			底質に係る有害物質等					×		
	地下水の水質	地下水の水質に係る有害項目								
	水象	河川等の流量、流速及び水位					◎	◎		
		地下水の水位及び水脈					◎			
		温泉及び鉱泉								
		堤防、水門、ダム等の施設								
土壌	土壌に係る有害項目			◎		●				
地象	地盤沈下					◎				
	土地の安定性									
	地形及び地質(重要な地形及び地質を含む。) 表土の状況及び生産性				×					
動物	保全すべき種		●			○				
	保全すべき種			◎		○				
	植生及び保全すべき群落 緑の量			◎		○				
生態系	地域を特徴づける生態系		●			○				
人と自然との豊かなふれあいの確保及び快適な生活環境の保全を旨として調査、予測及び評価されるべき項目	景観	景観資源(自然的景観資源及び歴史的景観資源)				×				
		眺望景観				●				
	自然とのふれあいの場		●			○	○	◎		
	史跡・文化財	指定文化財等				×				
		埋蔵文化財				×				
日照障害 電波障害 風害	日影の状況				●					
	電波受信状況				●					
	局所的な風の発生状況									
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき項目	廃棄物等	廃棄物			◎	●				
		残土 雨水及び処理水								
	温室効果ガス等	温室効果ガス オゾン層破壊物質	●	●		●	◎	●	◎	
一般環境中の放射性物質について調査、予測及び評価されるべき項目	放射線の量	放射線の量	×	×						

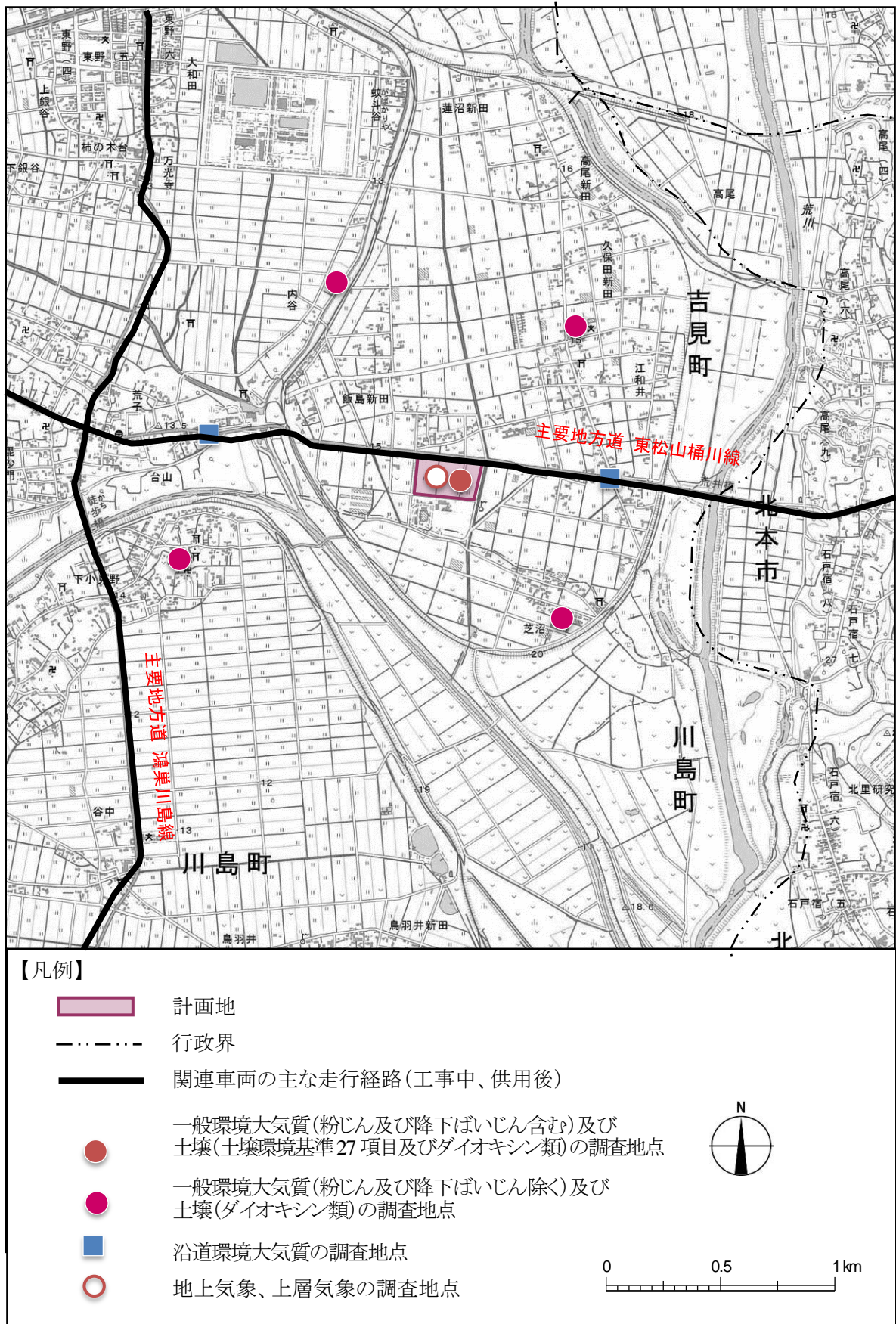
●:標準的に選定する項目。 ○:事業特性、地域特性により選定する項目。

×:標準的に選定する項目または事業特性、地域特性により選定する項目であるが、今回選定しないもの。

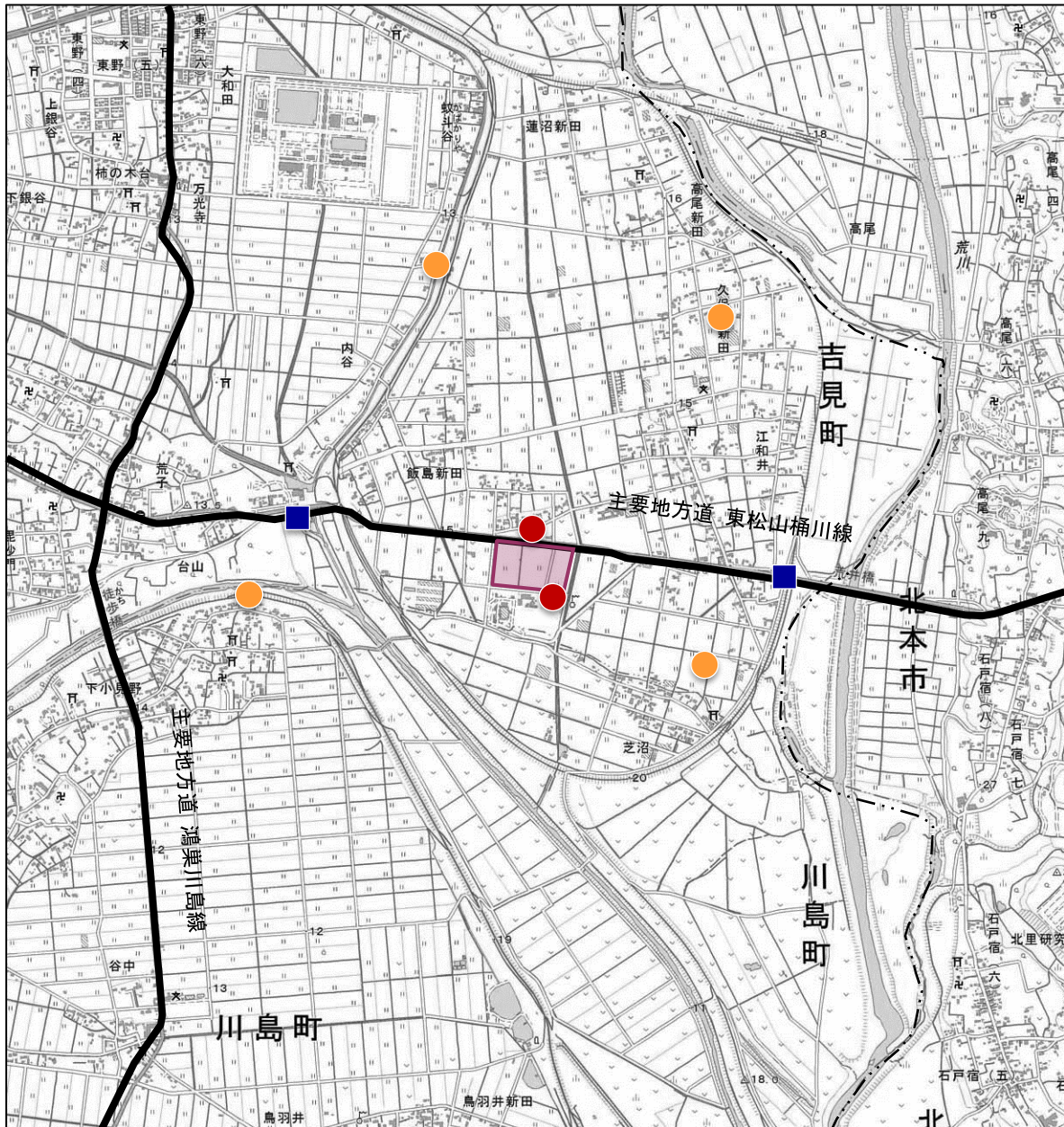
◎:標準的に選定する項目として設定されていないが、今回選定するもの。

3. 調査地点

3-1. 大気質・気象・土壌調査地点

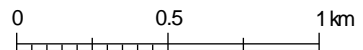


3-2. 騒音・低周波音、振動、悪臭調査地点



【凡例】

- 計画地
- 行政界
- 関連車両の主な走行経路(工事中、供用後)
- 環境騒音・低周波音、環境振動、悪臭(臭気指数(臭気濃度)及び特定悪臭物質濃度(22項目))の調査地点
- 悪臭(臭気指数(臭気濃度))の調査地点
- 道路交通騒音・振動、交通量の調査地点



3-3 水質、水象及び地盤調査地点

